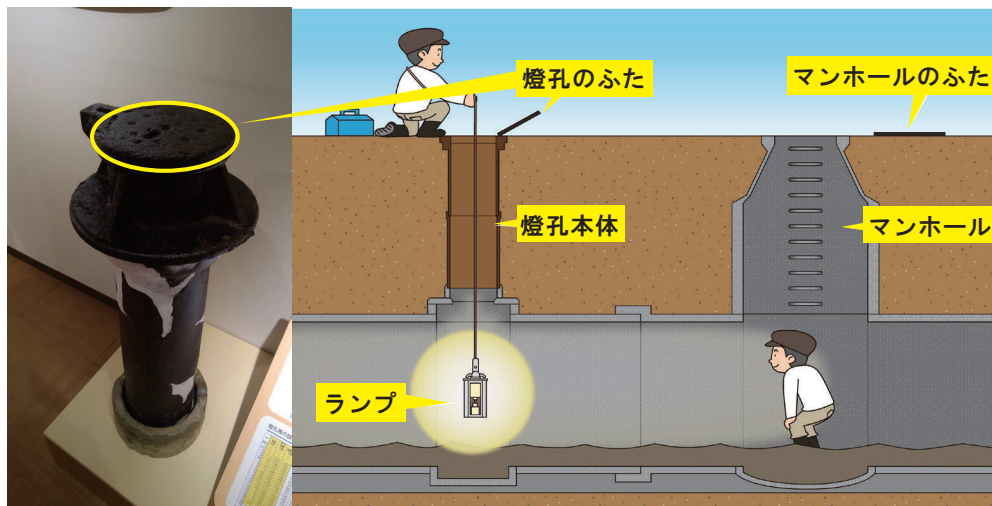


なごやの下水道 歴史探検 vol. 6

創設期の下水管 ～ 燈孔（ランプホール）～

水の歴史資料館では、創設期の下水道遺産として、煉瓦積みマンホールなどを展示しています。ここでは下水管の付属設備である燈孔を紹介します。

燈孔は下水管内にランプを垂らすための孔のことで、ランプホールともいいます。下のイメージ図のように、隣の人孔（マンホール）から見て管内の検査を行うほか、ホースを通して洗浄を行うために使用していました。人孔の築造費用が高額なため、その代用として大正12（1923）年の創設工事完了までに1,473ヶ所設置しました。



当館に展示の燈孔と、その使用イメージ図

昭和36（1961）年から名古屋市長を3期務めた杉戸清氏は、水道局長時代の昭和23（1948）年に「下水道学」という技術書を著し、燈孔について工事費用削減効果を認めながらも、「その効能も大した事もないので、普通の人孔にした方が良くと思う」と記しています。燈孔は昭和4（1929）年以降設置されず、戦後になると、ほとんど使用されなくなりました。

明治34（1901）年の時点では、法令（内務省訓令）に記載されていた燈孔ですが、日本下水道協会発行の公共下水道統計昭和44年度版を最後に「燈孔」の掲載はなくなりました。まさに、創設期の下水道遺産です。